

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

1. 事業概要

住所	岐阜県美濃市長瀬434番地
従業員数	21名 (H26(2014).4.1現在)
敷地面積	8227㎡
事業内容	・プラスチック製品の製造加工ならびに販売 ・上記に付帯する一切の業務

主要製品



- ・ポリスチレンシート
- ・ポリエチレンシート
- ・ポリスチレンプレート

工場変遷(沿革)

昭和27年11月26日	名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。
昭和31年 8月	硬質塩化ビニル管製造販売を開始。
昭和36年11月	本社及び工場を小牧市に移転。
昭和39年 7月	硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。
平成 2年 8月	岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。
平成10年12月	ISO9002審査登録
平成12年10月	ISO14001審査登録
平成13年 4月	美濃工場が岐阜県環境優良事業所となる
平成14年12月	ISO9001:2000移行認証取得
平成17年 7月	ISO14001:2004移行認証取得
平成21年 7月	ISO9001:2008移行認証取得

2.環境方針

ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

1) 硬質塩化ビニル管及び2次加工品の製造、ポリエチレン等のプラスチック管の製造、ポリスチレン・ポリエチレン等のプラスチックシート及びプレートの製造における生産活動で、環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保全に努めます。

- ① 廃棄物のリサイクル化及び減量化を推進します。
- ② 設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを推進します。
- ③ 技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を推進します。

上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。

2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に参加します。

- ・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。
- ・この環境方針は、一般の人も入手できます。

平成26年4月1日
日本プラスチック工業株式会社
代表取締役社長
住田和正

ISO認証取得状況

平成12年10月 ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276)
平成13年10月 ISO14001第1回定期維持審査実施
平成14年10月 ISO14001第2回定期維持審査実施
平成15年 9月 ISO14001第1回更新審査実施
平成16年 7月 ISO9001第2回更新審査、ISO14001第1回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成17年 7月 ISO9001第2回-1定期維持審査、ISO14001第1回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成18年 7月 ISO9001第2回-2定期維持審査、ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成19年 7月 ISO9001第3回更新審査、ISO14001第2回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成20年 7月 ISO9001第3回-1定期維持審査、ISO14001第2回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成21年 7月 ISO9001第4回更新審査、ISO14001第3回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成22年 7月 ISO9001第4回-1定期維持審査、ISO14001第3回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成23年 7月 ISO9001第4回-2定期維持審査、ISO14001第3回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施
平成24年 7月 ISO9001第5回更新審査、ISO14001第4回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成25年 7月 ISO9001第5回-1定期維持審査、ISO14001第4回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

3.環境保全中期計画 目標及び実績(本社+美濃)

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度	2013年度	
					実績	自己評価 ※4,5
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位 ^{※2}	2008	▲14%	▲16%	○
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	▲17%	○
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	▲56%	◎
		再資源化率 ^{※3}	-	99.5%以上	99.4%	△
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	▲29%	○
化学物質の管理	VOC ^{※1} の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	-	-

※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。

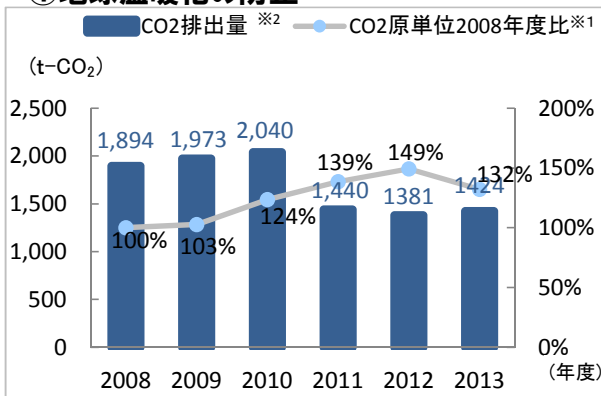
※3 再資源化率(%) = (有価物売却量+社外再資源化量) ÷ (有価物売却量+社外再資源化量+埋立量) × 100
社外再資源化量には熱回収量を含みます。

※4 ▲は「マイナス」を意味します。

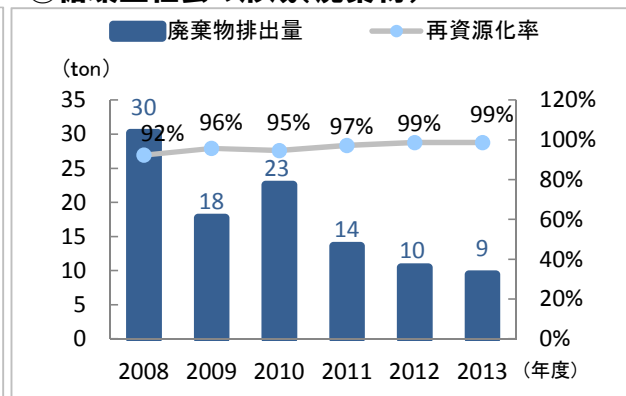
※5 自己評価の基準 ◎目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

4.環境パフォーマンス(美濃)

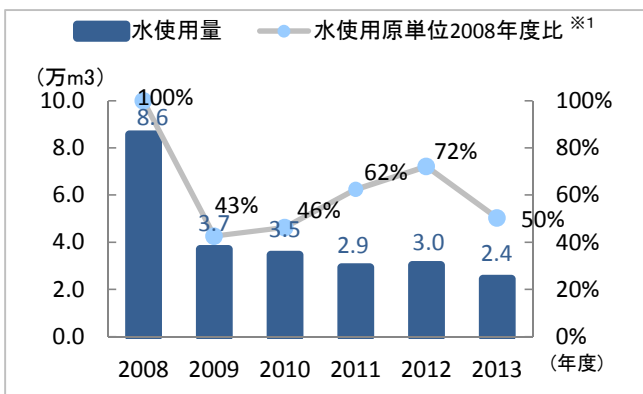
①地球温暖化の防止



②循環型社会の形成(廃棄物)



③循環型社会の形成(水)



※1 原単位2008年度比:2008年度の生産トン数ベースの原単位を100とした場合の割合

※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

4.環境パフォーマンス(つづき)

PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減(2013年度)

当工場において届出対象となる物質
はありませんでした。

5.環境トピックス

環境関連活動

- 産業廃棄物削減:廃棄物の分別化、再利用、リサイクル及び有価物化の推進。木パレットの有価物化。
- 省エネ活動:電力原単位の削減、機械停止時の待機電源OFF、照明のLED化。
- 騒音・振動規制:工場周りの騒音・振動測定(2か月に1回)の実施。
- 水質関連:工場排水、井戸水の環境測定(年1回)の実施。

6.環境コミュニケーション

① 地域の皆様との交流

美濃工場

名称	長瀬地区町内春祭りに缶ビール1ケース、缶ジュース1ケースを寄付
日付	平成25年4月12日

② 地域美化活動

美濃工場

名称	長瀬地区内清掃活動に参加
日付	平成25年5月19日
参加人数	日本プラスチック工業(1名)

名称	工場周り側溝、清掃、草むしり活動
日付	平成25年4月26日
参加人数	日本プラスチック工業(4名)

日本プラスチック工業株式会社 美濃工場

7. サイトデータ

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	686
水使用量	万m ³	2.4

OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,424
---------------------	-------------------	-------

主要ばい煙発生施設		-		
項目	単位	規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制 ともにm ³ N/h	ばい煙発生施設なし	
	NOx	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm		
	ばいじん	g/m ³ N		

排水量	公共用水域 万m ³	2.4	
	下水道 万m ³	-	
汚濁負荷量	COD	kg/年	-
	窒素	kg/年	-
	りん	kg/年	-

排水	放流先	項目	単位	排水口名	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値	5.8~8.6	6.8
		BOD	mg/ℓ	160	0.3
		COD	mg/ℓ	160	0.5
		窒素	mg/ℓ	-	-
		りん	mg/ℓ	-	-
		六価クロム	mg/ℓ	-	-
		鉛	mg/ℓ	-	-
		COD総量規制値	kg/日	-	-
		窒素総量規制値	kg/日	-	-
		りん総量規制値	kg/日	-	-
		下水道		pH	最小値, 最大値
BOD	mg/ℓ			-	-
COD	mg/ℓ			-	-
SS	mg/ℓ			-	-

廃棄物排出量	t	9
再資源化率	%	98.6%